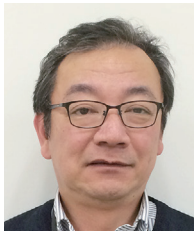


振り返り



湯佐正己

日立化成(株) CSR 統括部 グローバル人事総務センター
[100-6606]東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー
BP担当部長.
専門は高分子.

m-yusa@hitachi-chem.co.jp
www.hitachi-chem.co.jp

筆者が人事の仕事を担当するようになったのは、2010年7月なので、もう4年半になる。昨年、高分子学会年次大会と同時に開催された男女共同参画のセミナーで、「日立化成のダイバーシティ」についてお話させていただいた関連で、この「仕事と私事」にも執筆のご依頼をいただいた。気軽に「執筆します」とご回答をした後で、過去の掲載記事をいくつか読ませていただいたが、皆さんがいわゆる「仕事と私事」についていろいろな体験をお話していることがわかり、自分として何を皆さんにお伝えすることができるのか不安になっているのが正直な心境である。

さて、前置きが長くなってしまったが、筆者は研究職として入社し、人事に移る4年半前まで28年間は、半導体や液晶ディスプレイに使用される材料開発を担当してきた。その間、いくつかのテーマを担当し、製品になったものもあるし、途中で断念したテーマもある。研究所のテーマではあるが、お客さんと一緒に研究開発を行ったテーマもあり、時にはお客さんとの共同開発で毎日遅くまで実験をして、お客さんとの打ち合わせに間に合わせたこともある。その意味では今考えると、筆者自身はかなりの会社人間であった。ただし、自分としては、その研究テーマには興味があり、とても楽しく実験をしていたことを覚えている。当時はすでに結婚もし子供もいたが、妻が仕事を辞めたこと（結婚したから辞めてほしいとは言っていないので念のため）、妻の実家が近いこともあり、休みの日に子供の部活や少年野球に付き添うくらいで、どう見てもワークとライフを両立していたとは言えない状態であった。仕事中心の筆者を支えてくれた妻と子供と実家の家族に感謝である。

そのような昔のことを思い出しつつ、今研究職に戻って同じ立場になったらどのようなスタイルになっ

ているだろうか。やはり仕事人間として、毎日夜おそくまで仕事をしているだろうか。ぜんぜん違うスタイルになっているだろうか。過去に戻ることはできないので正解はないのだが、少なくともいくつかは違う自分がそこにはいると思う。人事の仕事の中で、採用・教育・ダイバーシティを担当し、今までとは違う分野の仕事、人とかかわり、意識が変わったような気がする。当然、世の中の状況もずいぶん変化している。海外の経験や違う分野のテーマなど、もっと積極的に取り組んでいるだろう。家庭では、まだ小さい子供にももっといろいろな体験をさせているだろう。昔を懐かしみながらそのような思いがめぐっている。

今筆者のとりとめもないこの話を読んでいただいている皆さんは、学生、先生、社会人などいろいろな方がいると思うが、研究や仕事（ワーク）と私事（ライフ）はどのような状況だろうか。皆さん、楽しんでいるでしょうか。当然、状況によってはワーク中心にもなるし、ライフ中心になることもあるだろう。「趣味は仕事です」と言う人も昔はいたが、人それぞれの考えなのでとくに正解・不正解、良し悪しがあるわけではない。皆さんは是非、今考えることややりたいことを大切に、楽しくいろいろなものにチャレンジしていったほしいと思う。自分の周りをみても、自ら積極的に取り組んでいけば、いろいろなことにチャレンジできる状態であると思う。筆者自身も、人事を担当してきたこの4年半は、研究の仕事とは全く違う世界の中でいろいろなことにチャレンジすることができたと感じる（チャレンジの大きさはさておいて）。

このようなことを書きながら、これからも仕事と私事を両方楽しみながら、なにか新しいことにチャレンジしてみたい気持ちになってきている。